

すなお

令和元年10月号



おやのことば

しんぢつの

心を神がうけとれば

いかなぢうよふ

してみせるてな

おふでさき 第五号 一四

大勢預かるとなかなかそういう訳にはいきませんが、私自身も修養科生のつもりで、出来るひのきさんは精一杯させて頂いています。今回はちょうどのタイミングでいろんなひのきしんを与えて頂き、さすが神様のされることとは絶妙だと感じています。

毎日の与えをしつかり喜ばせて頂き、心身ともに元気にさせて頂いています。そして、おちばでのたくさんのお土産をお渡しできるように一生懸命つとめ切らせて頂きます。



会長

先月の末から修養科生の教養掛として、おぢばにてつとめさせて頂いています。留守中も皆さん変わりなく勇んでおつとめ下さりありがたい限りです。

生徒さんは、瀬戸路から入学して下さった一人の方と共に日々詰所のひのきしんをさせて頂き勇んじとめさせて頂いています。マンツーマンですので、どんな感じになるか、、、と思つていましたが、とても良い感じです。

通 巻 発行所

責任者

すなお (立教182年10月号)

No.711
天理教瀬戸路分教会
794-0007 今治市近見町4-5-10
 0898-23-5004
 FAX 0898-23-5123
発行日 二〇一九年十月十六日
二宮英治



匂い

深谷善太郎著『だけど有難い』から

～前略～ お風呂に入って石けんで体を洗うと香しい匂いがします。石けんの匂いというのは、だいたいみんな好きな匂いのようです。ですから、お風呂から上がった人は良い匂いがするのです。石けんで体を洗うように、教えて心を洗う。綺麗にして、その匂いを掛けて回るということが、私たちの大変な御用なのです。

世界に無臭のものはありません。どんなものにも必ず匂いはあるのです。人も同じです。ですから「にをいがけ」は、いつでも誰でも、知らずしらずのうちにしているのです。私たちの役目は、お道の匂いを掛けて回ることです。そのためには、相手に近づかなければなりません。隣の部屋にいたのでは分からぬのです。私たちのすべきことは、教えを身につけ、人に声を掛けて回ることなのです。

教会ニュース

本部秋季大祭参拝

今月26日には本部で秋の大祭が執行されます。本部へは教区バスの利用になりますが、是非ともお帰り下さい。決まりましたら早めに教会まで連絡を下さい。

修養科入学

今月1日より修養科第942期に菊川忠成さんが入学され、おぢばでの伏せ込みやおてふり・鳴り物練習に頑張って下さっています。

教養掛

先月26日から4回目の教養掛として、会長がつとめさせて頂いています。

婦人会創立110周年 日々の理御供 報告

8月には55,190円を上級葛城へ運ばせて頂きました。2020年4月までつとめさせて頂きますので、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。



心の風景

鈴代

随分以前の話ですが、長野県松本駅から列車に乗った時のことです。気の張る講演の御用を終えて列車に飛び乗ったのですが、その日は休日と重なって車内は超満員でした。むせかえる様な車中の空気とざわめきに、疲れた体はついに倒れそうになりました

その時ドアの前でマイかばんに座って本を読んでいた娘さんが「座りませんか？」と立ち上がって私を座らせて下さった。大切な物が入っているだろう大きなかばんの上に遠慮することなく座らせてもらった。今にも倒れそうだった私はその無礼を許してもらった。何駅か通過したのち「すみません降りますので」と優しい声を残して彼女はかばんを背に下車していかれた。その後ろ姿が瞼に残っています。

名前も聞けなかった自分を今も深く後悔しています。優しいお母さんになってきっと幸せな日々を送っておられるだろうと、はるかな時を越え場所を越え、離れることなく私の心にいつまでも生き続けています。人の優しさは、人の心を幸せに、優しい言葉に温かい暮らしを神様が必ず下さいます。

「むごいこころをうちわすれ やさしきこころになりてこい」



勇んだおつとめ

田中道則

10月の初めに仕事で伯方島に行きました。建設会社の倉庫に足場を立てていると、隣が教会で午後から月次祭が始まりました。平屋で敷地いっぱいに大きな神殿が建っています。座りづとめを聴きながら勇んで作業させてもらいました。上半下りに入り、年配の男性の方が聞こえました。とても上手なのですが、よく聴くと笛の音程より半音から1音くらい低く聞こえました。この半音から1音低いため、笛の音とぶつかったり、短調の暗く聞こえる旋律になります。おつとめは知らない人が初めて聞いても、なんて心地の良いうたなんだを感じてもらえるように作られています。自分も地方や日々のおつとめの時に笛の音程をとつとめたいと思います。